

## 岩手の教育課題に応じた小中一貫教育のモデルカリキュラムの開発 (その2) ～総合的学習及び特別支援教育について～

田代 高章・小岩 和彦・森本 晋也\*, 藤岡 宏章\*\*, 伊藤 綱俊・高橋 健・熊谷 芳樹・  
菊池 はるひ・木村 洋, 田淵 健・中軽米 璃輝・村上 貴史\*\*\*

(2019年2月15日受付)

(2019年2月15日受理)

Takaaki TASHIRO, Kazuhiko KOIWA, Shinya MORIMOTO, Hiroaki FUJIOKA, Takahiro FUJIMORI,  
Tsunatoshi ITO, Ken TAKAHASHI, Yoshiki KUMAGAI, Haruhi KIKUCHI, Hiroshi KIMURA, Ken TABUCHI,  
Riki NAKAKARUMAI, Takashi MURAKAMI

Development of a Model Curriculum for Integrated Elementary and  
Junior High School Education Responding to Iwate's Educational Issues :  
Focusing on Integrated Learning and Special Support Education

### 要 約

本研究は、平成29(2017)年に告示された改訂学習指導要領を踏まえながら、教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)の1年次講義科目である「特色あるカリキュラムづくりの理論と実際」(前期必修)を踏まえ、「学習指導要領とカリキュラム開発」(後期必修)の成果の一つとして、小中の校種をつなぐ9年一貫のカリキュラムを開発し提案するものである。その際、岩手県の特性を生かし、東日本大震災の復興という観点から沿岸被災地の学校をモデルにすること、小中一貫教育に取り組む学校をモデルにすること、という条件を定め、あわせて、岩手の教育課題を念頭に、国語科、算数・数学科、総合的学習、特別支援教育の4つのテーマを取り上げて、独自のカリキュラム開発を提案し、岩手の学校教育実践の発展向上への貢献を目指す研究である。本稿では、総合的学習及び特別支援教育の全体カリキュラム案を提示する。

### 第1章 本研究の趣旨・目的

本研究の目的は、岩手県被災地沿岸部の学校を想定して、一定のテーマに焦点化しつつ、各学校のカリキュラム開発に際して参考となりうる小中一貫教育の全体的なカリキュラム案をモデル提示することである。

今回の改訂学習指導要領では、将来の不確実で多様な社会像を見据え、「よりよい学校教育を通

じてよりよい社会を創る」という表現にも象徴されるように、学習者である子どもの立場から、学校教育で学んだことが将来の社会において活用できる力の育成を目指している。すなわち、子どもたちに、就学前教育を含め学校教育を通じて、個人として生涯にわたって学び続ける力を育て、自らの人生を切り拓くとともに、社会の創造にも寄与しうる力を育むことが求められているのである。このような学校教育を通じて育み、将来にも

\*岩手大学大学院教育学研究科, \*\*岩手県立総合教育センター, \*\*\*岩手大学大学院教育学研究科教職実践専攻

つながる力を、改訂学習指導要領では「資質・能力」（子どもたちにとって、何ができるようになるか）という言葉で強調している。

そのために、学校が家庭や地域と協働しながら、将来の社会を創る担い手を育む環境を整え、学校教育の質全般を高める必要がある。「社会に開かれた教育課程」も、学校から、家庭・地域への横の広がり、学校種を超えて、子どもの発達に即して生涯全般にわたる、縦のつながりとしての両側面を含む教育課程のあり方を意味するといえる。

何よりも、現在の子どもたちの実態や家庭や地域の現実に照らしながら、現在から未来に向けて、学校教育でどのような力、すなわち、「資質・能力」を育む必要があるかを、各学校において意識しつつ、それらの力を育むのにふさわしい教育内容(教科等の内容、単元内容等)と、主体的・対話的で深い学びという授業改善の視点を生かした適切な教育方法が工夫され、それらの教育活動全般の有効性を適切に評価し、教育活動の絶えざる修正・改善に努めていくことが求められている。いわゆるカリキュラム・マネジメントの視点から、常に教育改善に努めていくことが学校・教職員、学校関係者全般に求められる状況にある。

特に改訂学習指導要領では、各教科や専門性に基づくミクロな観点のみならず、個々の子どもの成長発達という人生全体で、子どもに応じた「資質・能力」を伸ばすことを目指すために、マクロな観点から、教科間の関連や、校種間の接続が重視される。教科をこえる汎用的な能力や、日常生活の事象や地域の課題は、必ずしも特定の教科等に限定されるものではなく、学際的な性格を持ちうる。また、個々の子どもの生涯にわたる人生全体からは、小・中・高と校種相互の関連性を教員自身も意識しながら、当該子どもにとって意味ある教育活動を構想していくことも必要である。

このように、これからの各学校の教員にとっては、全体鳥瞰図としてのカリキュラムをデザインできるカリキュラム開発力を高めることが求められるといえよう。

本研究では、マクロな観点からのカリキュラムの全体像を開発する力の育成を目指しつつ、ある程度の具体性をもって提案するために、以下の条件を付した。

①東日本大震災の復興という岩手の地域特性を考慮し、沿岸部・被災地の学校を想定すること。

②校種を超えて、個々の子どもの成長発達の全体を見通しながら教育活動に取り組むことを考慮し、義務教育段階の小中一貫教育のカリキュラムを開発すること<sup>1)</sup>。

③岩手の教育課題に照らして、4つの具体的テーマに即してカリキュラム開発すること。本研究では、院生とも協議した結果、具体的には、国語、算数・数学、総合的学習、特別支援教育の4テーマとした。

以上の条件を踏まえ、各テーマにおいて、「資質・能力」と単元内容の系統的発展を念頭に置いた全体計画案、年間指導計画案の作成提案を行うものである。

もちろん、それらのカリキュラム案は、あくまで提案であって、絶対不変な計画案ではありえない。本研究で提示するカリキュラム案は、現実の子どもたちに対して、各学校現場で実践することを通じて、常に修正・改善に努め続けることが必要である。

本研究で提示するモデルカリキュラムの成果は、安易に評価できるものではなく、ある程度の期間における各学校での実践活用を通じて、その有効性や正当性が検証されていくと考える。

本研究は、これからの学校教員に求められる、子どもに即したカリキュラム開発力育成の出発点の位置づけを有している。

(文責 田代高章)

## 第2章 研究の方法

カリキュラム開発にあたり、下記のフィールド調査を踏まえ、「国語」「算数・数学」「総合学習(ふるさと科)」「特別支援教育」のテーマを設定した。

また、多様な見方・考え方で協議しながらカリキュラム開発を行うことができるよう、学卒院生と現職院生を混合にし、多種の校種からなるグループを編成した。そして、前期科目「特色あるカリキュ

ラムづくりの理論と実際」と後期科目「学習指導要領とカリキュラム開発」の授業の一環として下記のフィールド調査を行い、沿岸被災地における状況を把握しながらカリキュラム開発を行った。

2018年 6月4日 (6月11日)	岩手県教育委員会を訪問し、「幼保小接続」「学力向上」「道德教育」「復興教育」のテーマについて担当の指導主事に本県における現状について調査した。
6月25日	上記の4つのテーマでのカリキュラム開発の中間報告会に岩手県教育委員会から指導主事を招き、改善点について助言を受けた。 ※作成したカリキュラムについては、県教育委員会の各担当指導主事に送付し、評価（良かった点と改善点）を受けた。
7月20日	釜石市立唐丹小学校と唐丹中学校を訪問し、沿岸被災地における教育の現状及び小中及び地域との連携の現状について、管理職及び地域の方から聞き取り調査を行った。
9月21日	釜石市立唐丹小学校と唐丹中学校の学校公開研究会に参加し、沿岸被災地における学校教育の現状について調査した。
11月9日 11月10日	大槌町で開催された小中一貫全国サミットに参加した。大槌学園及び吉里吉里学園における公開授業を参観し、沿岸被災地における小中一貫教育の現状について調査した。
2019年 2月12日	小中一貫カリキュラム開発の最終報告会に、これまで大槌町における小中一貫教育の指導にあっていた岩手県立総合教育センター所長を招聘し、作成したカリキュラムについて評価を受けた。

(文責 森本晋也)

### 第3章 小中一貫モデルカリキュラムの提案

#### 1 総合的学習について

(1) 総合的な学習の時間における小中一貫教育の現状と課題

もともと2008（平成20）年1月17日の中教審答申では、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとすることから、思考力・判断力・表現力等が求められる「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものである。」<sup>2)</sup>と述べられている。

同答申では、校種間の接続に関しても「総合的な学習の時間のねらいについては、小・中・高等学校共通なものとし、子どもたちにとっての学ぶ意義や目的意識を明確にするため、日常生活における課題を発見し解決しようとするなど、実社会や実生活とのかかわりを重視する。」「学校間・学校段階間の取組の実態に差がある状況を改善するため、総合的な学習の時間において育てたい力の視点を例示する。」<sup>3)</sup>と指摘がなされている。

そこで本研究では、小・中一貫の9年間の学びの連続性と育成したい資質・能力の明確さに課題意識を持ち、それらを踏まえた全体計画と年間指導計画の作成を試みた。

## (2) カリキュラム開発の視点

新学習指導要領では、2016年12月の中央教育審議会答申に基づき、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた<sup>4) 5)</sup>。よって本研究で設定した、ふるさと科の「育成を目指す資質・能力」も三つの柱に基づき作成した。このとき、4年生と5年生の間にある発達の壁や「中一ギャップ」への対応を考慮し、通常行われている「6―3制」ではなく、「4―3―2制」とし、ホップ期（1～4年生）、ステップ期（5～7年生）、ジャンプ期（8～9年生）の、9年間でつけるべき力を、系統立ててそれぞれ明らかにした<sup>6)</sup>。また、「学びに向かう力、人間性等」をより具体的にイメージするために、「主体的に学ぶ力」「他者とのかかわる力」「社会貢献力」「自己形成力」の4つに分け整理した<sup>7)</sup>。

学習内容に関しては、地域の特徴を活かし9年間を見通したカリキュラムの作成を意識して行った。そして、9年間の学習の積み重ねを「学生会議への参加・町への提言」というゴールの形で設定した。ふるさと科の三つの柱である「地域への愛着を育む学び」「生き方・進路指導を充実させる学び」「防災教育を中心とした学び」のそれぞれの9年間の学びの積み重ねを通して、自らの考えを持ち、「学生会議への参加・町への提言」で考えを発信し、そこから自分たちのできることを見つけ、実際に行動に移すことができるようになることをイメージし、カリキュラムを作成した<sup>8) 9)</sup>。また、全体計画で今まで作成されていなかった「ふるさと科と各教科・領域等と関連する能力、技能」や「指導と評価について」の記載を加えた。

年間指導計画については、単元系列の内容を学期ごとにまとめ、それぞれで特に育成したい資質・能力を明記し、「見える化」することで意識して指導できるようにした。また、「地域への愛着を育む学び」「生き方・進路指導を充実させる学び」「防災教育を中心とした学び」を具体的にイメージできるように、「自然環境」「産業」「歴史/伝統/文化」「自分」「未来」「防災」の項目に分け系統図を作成し、学習内容を配列した。

## (3) 全体カリキュラムの提案

以下、図表1～図表3において総合的学習に関するカリキュラムの全体計画案を提案する<sup>10)</sup>。

## (4) 課題について

本研究でのふるさと科のカリキュラム開発では、「沿岸」「被災地」「小中一貫」の3つの想定で作成を行ったが、具体的な児童・生徒、学校の実態が意識できておらず、重点項目を明確にするなどの工夫ができなかった。カリキュラムを作成する際は、現状分析を行い、その分析結果に対応する目標や重点が考えられ、カリキュラムが作成される。現状分析ができていないと、効果的なカリキュラム作成はできないので、具体的な運用の際は実態把握を十分に行う必要があると考える。

9年間の学びの集大成としての「学生会議への参加・町への提言」に向けて、意識して学習を行うためのオリエンテーションが必要であると考え。また、それぞれの単元において、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していきながら、資質・能力を育成する必要がある。そして、「学生会議への参加・町への提言」で終わることなく、そこから課題解決に向け主体的に行動に移すまでのカリキュラムが必要であると考え。

最後に、小中一貫教育におけるカリキュラムの連続性と、岩手の復興教育や各教科等との関連を踏まえながら子どもたちが地域に即した探究学習を行えるために、総合的学習の小中一貫カリキュラムを開発する際の視点として、今後、以下の6点に留意する必要があると考える<sup>11)</sup>。

- ①教科横断的で探究的な学習となるカリキュラムとすること。
- ②地域への貢献(復興)・参画・協働できるカリキュラムとすること。
- ③自己を深く見つめることができるカリキュラムとすること。
- ④単元系統図へ各教科の学習も組み込むこと。
- ⑤自他の命を大切にし、防災・安全についての知識及び行動力が身につくカリキュラムとすること。
- ⑥目指す資質・能力について、子どもの発達に即して校種を超えて発展的に見通しを持つことができるようなカリキュラムとすること。

(文責 伊藤綱俊・高橋健・熊谷芳樹・菊池はるひ)

## 2 特別支援教育について

### (1) 特別支援学級における小・中一貫の教育課程の現状

文部科学省において「特別支援教育」とは、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」<sup>12)</sup>と平成19年に定義された。それ以降、特別支援学校や特別支援学級に在籍している幼児児童生徒が増加する傾向にあり、通級による指導を受けている児童生徒も平成5年度の制度開始以降増加してきている<sup>13)</sup>。また学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒が通常の学級において6.5%程度在籍しているという推計もある<sup>14)</sup>。岩手県においても、学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒が通常の学級において5.7%程度在籍しているという推計となっている<sup>15)</sup>。文部科学省では、特別支援学級だけではなく、全ての学級において発達障害等を含めた障害のある児童生徒が在籍することを前提とした学校経営・学級経営を求めており、障害のある児童生徒の多様な教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行っていく必要がある<sup>16)</sup>と述べている。この

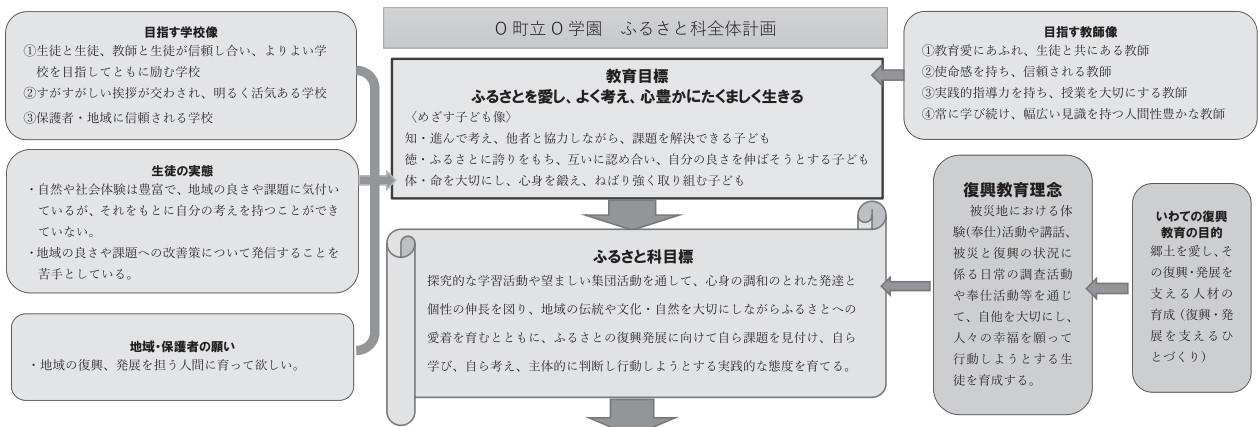
ことから、特別支援教育はどの学校でも取り組まれるものとなっている。

特別支援学校では、小学部・中学部・高等部(校種によっては幼稚部・専攻科も設置)といった学部が一つの学校内に設置されていることが多く、学びの系統性についての意識がもちやすい。一方で、小学校、中学校にそれぞれ設置された特別支援学級の間では、系統的な教育課程を編成することに難しさがある。また、特別支援学級は複数の学年の児童生徒が在籍することや、知的発達の段階も様々であるという特質があるため、系統的な学習内容の配列に沿った学習が難しく、個別に教育内容を定めている場合も多い。こうした現状の下、特別支援学校学習指導要領解説総則編では、小学部と中学部の接続や特別支援学校の学区内の小・中学校間の連携の重要性について、「9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成し小学部と中学部とで一体的な教育内容と指導體制を確立して特色ある教育活動を展開していくことが重要となる」<sup>17)</sup>とし、9年間を見通した系統性のある教育を行うことを強調している。しかし、岩手県において、小・中学校間で系統性のある教育課程を編成・実践している学校はまだ少ない。そこで、本研究では、特別支援学校のように、小学生と中学生が共に生活する校舎一体型の義務教育学校の例に着目し、小中一貫の9年間の学びの連続性と資質・能力の育成を意識した特別支援学級(知的障害)のカリキュラムの開発を試みた。なお、今次研究では、児童生徒の実態に応じて個別に計画されていることの多い教科別の指導ではなく、学年、学団、学部等、集団で学習することの多い知的障害教育における各教科等を合わせた指導(生活単元学習)の系統性についての検討とした。

### (2) カリキュラム開発の視点

特別支援学校学習指導要領の改訂では、学びの連続性を重視した対応、一人一人に応じた指導の充実、自立と社会参加に向けた教育の充実の3点が主な改善事項とされた<sup>18)</sup>。また、知っていることを活用して未来社会を切り拓くための「何が

図表 1



ステージ	幼	ホップ期(1~4年)	ステップ期(5~7年)	ジャンプ期(8~9年)	高
育成を目指す資質・能力		《 設定した資質・能力について特に身に付けさせたい力 》			
知識・技能		・学習したことをまとめる力	・学習したことの関連性を理解することができる力	・学習したことの関連性を踏まえて、自ら語れる力(知の構造化)	
思考力・判断力・表現力等		・問題状況における事実や関係を把握する力 ・二つの情報の中にある特徴を見つける力 ・課題解決に必要な事象を理解する力 ・相手に応じて適切に表現する力	・問題状況における事実や関係を把握し理解する力 ・多様な情報の中にある特徴を見つける力 ・課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える力 ・相手や目的に応じて、わかりやすくまとめ、表現する力	・複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ力 ・視点を定めて多様な情報を分析する力 ・課題解決を目指して事象を比較したり、因果関係を他調したりして考える力 ・相手や目的、原因に応じて、論理的に表現する力	
学びに向かう力、人間性等	主体的に学ぶ力	・課題を見出す力	・自ら課題を見出し、解決しようとする力	・自ら課題を見出し、方針をたてて解決しようとする力	
	他者とかかわる力	・他者と協力しようとする力 ・自己と他者の考えの違いに気付く力 ・他者と協同して課題を解決しようとする力	・異なる意見や他者の意見を受け入れる力 ・他者と協同して課題を解決する力 ・他者とかかわりを通して自らの考えを振り返ろうとする力	・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する力 ・互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する力 ・他者とかかわりを通して、自らの考えを深めたり広げたりしようとする力	
	社会貢献力	・地域社会の現状を把握する力	・よりよい地域社会のために、何をすべきかを考える力	・よりよい地域社会のために、何をすべきかを考え実行しようとする力	
	自己形成力	・自分自身をみつめる力 ・自らの生活を振り返る力	・自分自身をみつめ、前向きにチャレンジする力 ・自らの生活の在り方を見直し、実践する力	・自分自身をみつめ、前向きにチャレンジし、より自律・自立した人間になろうとする力 ・自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する力	

学年編成	目標	学年	ふるさと科の3つの柱		
			地域への愛着を育む学び	生き方・進路指導を充実させる力を育む学び	防災教育を中心とした学び
ホップ期	ふるさとのよさをとらえ、ふるさとへの親しみや愛着を持ち、集団の一員として進んでよく考え行動し、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。	1年	学校大好き、友達100人大作戦 (・学校と周辺体験) おじいちゃん、おばあちゃんだいすき (・郷土のおかし・昔遊び)	学校大好き、友達100人大作戦 (・学校と周辺体験) お作法練習(心の持ち方・決まりを守る・マナー・コミュニケーション能力・実践力)	自分の身は自分で守る (・避難訓練・交通安全教室・情報モラル・防災学習・心の授業)
		2年	にこにこなやよし (・地域との交流・おもちゃ遊び・人形劇団との交流)		
		3年	たんけん、発見!町の人	たんけん、発見!町の人 (・地域で働く人々へのインタビュー)	
		4年	できることからはじめよう (・植樹と育樹、水性生物調査)	できることからはじめよう (・福祉体験、1/2成人式、自分たちのできること)	できることからはじめよう (・福祉体験)
ステップ期	復興発展を目指すふるさとに対する理解を深め、郷土を愛する心を育み、地域のために主体的に判断し行動し、よりよい生活を目指すという態度を育てる。	5年	大切な命 (・米づくり・宿泊体験、鮭料理、鮭の一生、稚魚放流)	大切な命 (・自分の誕生)	大切な命 (・自分の誕生)
		6年	見つめよう東北 (・修学旅行) ふるさとの歴史、ふるさとの未来 (・夢ケーキ作り、大船探訪)	歩きだそう未来へ (・小学部卒業プロジェクト)	
		7年	遺跡発掘体験 (・縄文遺跡、町の歴史) 自然体験学習(風力発電を学ぶ)	職場訪問 (・事業所、企業訪問) グループアプローチ (・十年後の自分)	防災教育(・避難訓練、交通安全教室、自然災害に対する知識、情報モラル学習、心の授業)
ジャンプ期	復興発展を目指すふるさとの一員として、事故の役割の自覚とより良い自己実現を目指し、社会人として自立して生きていこうとする態度を育てる。	8年	ふるさとの歴史・未来 大穂の特産品販売 (・宿泊研修での特産品販売活動) 新巻鮭作り	鮭の学習 宿泊研修での企業訪問や職業学習	防災マップ作り
		9年	特産品宣伝活動 修学旅行での特産品販売活動 修学旅行での地元出身者との交流会 大穂町学生会議参加、町への提言	職場体験学習(地域の職場体験活動) 大穂町学生会議参加、町への提言	語り部活動 大穂町学生会議参加、町への提言

図表 2

▽各教科・領域等との関連

関連する能力や技能など	
<b>国語</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えが相手に伝わるように表現する力</li> <li>相手が伝えたい事柄を正確に理解する力</li> <li>考えをまとめる力</li> </ul>
<b>社会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会に対する関心を高め、進んで調べようとする態度</li> <li>統計、資料などを読み取り活用する力</li> <li>観察や調査をし、考察する力</li> <li>調べた事柄を目的に合った方法で表現する力</li> </ul>
<b>数学</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道筋を立てて考える力</li> <li>目的に合わせて表やグラフを使って表現する力</li> <li>分析、説明する力</li> </ul>
<b>理科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事象に関心を持ち、進んで調べようとする態度</li> <li>科学手に筋道を立てて考え、問題を解決する力</li> <li>事象を推測し、予想を立てて検証していく力</li> </ul>
<b>音楽</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己表現する力</li> <li>鑑賞を通して様々な文化への関心を持ち、その文化について理解しようとする態度</li> </ul>
<b>保健体育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働の経験を通して公正な態度を育てる力</li> <li>健康、安全に気を付け活動する力</li> </ul>
<b>技術家庭</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの基本的な構成と機能を知り、操作ができる力</li> <li>課題を持って生活をより良くしようとする能力と態度</li> </ul>
<b>英語</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手にわかるように適切に表現する力</li> <li>積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度</li> <li>様々な言葉や異なる文化に対して興味関心をもち理解しようとする態度</li> </ul>

指導と評価について	
<b>指導方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自らが課題を見出すための指導法の工夫</li> <li>各教科との関連を意識した学習活動の展開</li> <li>「読む」「聞く」「書く」「話す」などの言語活動を積極的に取り入れた学習活動の位置づけ</li> <li>グループ活動や協同学習を意識した学習活動の充実</li> </ul>
<b>学習の評価</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導と評価の一体化の重視</li> <li>育てたい資質・能力を評価の観点とし、単元の学習活動に沿った評価規準の設定</li> <li>ポートフォリオを活用した評価の充実</li> <li>授業分析による学習指導の評価と授業改善</li> <li>研究部会、ふるさと科部会を活用した評価の実施</li> </ul>
<b>指導体制</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年部を中心とした指導とサポートの体制を構築する</li> <li>学年会と校内研修での実践を中心として情報の交流を行う</li> </ul>

関連する能力や技能など	
<b>生活科</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活上必要な習慣や技能の習得</li> <li>自立への基礎を養う具体的な学習活動及び体験</li> </ul>
<b>総合的な学習</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら見つけた課題の解決や探究活動</li> <li>主体的、創造的、協同的に取り組める学習活動（学習内容と学習方法の両面）</li> </ul>
<b>特別活動</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的活動の進め方</li> <li>社会の一員としての自覚と責任</li> <li>将来の生き方と進路</li> <li>「自己決定・集団決定」の場としての話し合い活動の充実</li> <li>評価の充実（学習内容と学習方法の両面）</li> </ul>
<b>特別の教科・道徳</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心</li> <li>郷土を愛する心</li> <li>目標に向かって努力する心</li> <li>助け合ったり支えあったりする心</li> <li>奉仕の心</li> <li>日本や外国の文化を大切にすること</li> <li>生命尊重の心</li> <li>自然を愛する心</li> <li>高齢者や生活を支える人への感謝、尊敬の心</li> </ul>
<b>防災・安全教育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害に対する知識</li> <li>行動訓練</li> <li>情報把握し、判断する等の思考力・判断力・実践意欲の育成</li> <li>生命尊重</li> </ul>
<b>ボランティア教育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時、平常時における自己存在感の認識</li> <li>役割と責任を自覚できる活動</li> <li>他者尊重、自己尊重</li> <li>奉仕活動等他地域社会の活動への参加意欲の育成</li> </ul>
<b>キャリア教育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校や大学等の卒業後を見据える</li> <li>主体的に人生計画を立てる</li> <li>進路の選択、決定</li> <li>市民生活、職業生活、家庭生活など社会生活の様々な場面への適応</li> <li>社会人、職業人として生きるために必要な能力</li> </ul>
<b>情報教育</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報社会における正しい判断力</li> <li>望ましい態度の育成</li> <li>情報モラルの知識・理解</li> <li>危険回避</li> <li>他者尊重、自己尊重</li> </ul>

▽単元系統図

三つの柱	系統	ステージ	ホップ期				ステップ期			ジャンプ期	
			1年 (小1)	2年 (小2)	3年 (小3)	4年 (小4)	5年 (小5)	6年 (小6)	7年 (中1)	8年 (中2)	9年 (中3)
地域への愛着	自然環境	学校大好き、友だち100人大作戦（学校と周辺探検）		たんけん、発見！町の人（町探検）	できることからはじめよう（植樹、育樹、水生生物）	大切な命（米作り、鮭の学習）	歩きだそう未来へ（卒業プロジェクト）	自然体験学習	新巻鮭作り	大槌町学生会議	
		産業		たんけん、発見！町の人（町探検）		大切な命（米作り、鮭の学習）	歩きだそう未来へ（卒業プロジェクト）	自然体験学習 職場訪問	特産品販売活動 新巻鮭作り	職場体験学習 特産品宣伝活動 大槌町学生会議	
		歴史/伝統/文化	おじいちゃんおばあちゃんだいすき（郷土料理、昔遊び）	にこにこなかよし（地域との交流、民話）	たんけん、発見！町の人（町探検）	できることからはじめよう（福祉体験）		見つめよう東北（修学旅行） ふるさとの歴史・未来	遺跡発掘体験	特産品販売活動 新巻鮭作り	特産品宣伝活動 語り部活動 大槌町学生会議
生き方・進路指導	自分	学校大好き、友だち100人大作戦（学校と周辺探検） お作法練習	お作法練習	お作法練習	できることからはじめよう（福祉体験、1/2成人式） お作法練習	大切な命（自分の命、米作り、鮭の学習） お作法練習	ふるさとの歴史・未来 歩きだそう未来へ（卒業プロジェクト） お作法練習	グループアプローチ		大槌町学生会議	
		未来			できることからはじめよう（1/2成人式）	大切な命（鮭の学習）	歩きだそう未来へ（卒業プロジェクト）	職場訪問 グループアプローチ	新巻鮭作り	職場体験学習 語り部活動 大槌町学生会議	
防災教育	防災	自分の身は自分で守る	自分の身は自分で守る	自分の身は自分で守る	自分の身は自分で守る できることからはじめよう（1/2成人式）	自分の身は自分で守る 大切な命（自分の命）	自分の身は自分で守る 歩きだそう未来へ（卒業プロジェクト）	防災学習	防災学習 防災マップづくり	防災学習 語り部活動 大槌町学生会議	

図表 3

全体計画（年間指導計画一覧表）		本校が育成を目指す資質・能力		知識技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学ぶ力	他者と関わる力		
		1学期				2学期			
ホップ期	1年	単元	学校大好き、友だち 100 人大作戦				おじいちゃんおばあちゃんだいすき		
		学習活動	学校周辺の安全、生命の大切さを知る	他	社		郷土に伝わるおやつ作り		
	2年	単元	自分の身は自分で守る				自分の身は自分で守る		
		学習活動	避難訓練、交通安全教室、よいこの教室	知	主		避難訓練、自然災害に対する知識、情報モラル学習		
	3年	単元	お作法教室				お作法教室		
		学習活動	オリエンテーション、夏休みの過ごし方	他	自		話し合いの基本スキル		
	4年	単元	にこにこなかよし				にこにこなかよし		
		学習活動	地域の生活の実態のとらえ、仮設住宅の方々との交流	他	社		地域の生活の実態のとらえ、仮設住宅の方々との交流		
	ステップ期	5年	単元	自分の身は自分で守る				自分の身は自分で守る	
			学習活動	避難訓練、交通安全教室、よいこの教室	知	主		避難訓練、自然災害に対する知識、情報モラル学習	
		6年	単元	お作法教室				お作法教室	
			学習活動	オリエンテーション、宿泊学習に向けて	他	自		話し合いの基本スキル	
		7年	単元	大切な命				大切な命	
			学習活動	米作り、宿泊体験	思	他		自分の誕生、鮭料理、米の収穫	
		ジャンプ期	8年	単元	自分の身は自分で守る				自分の身は自分で守る
				学習活動	避難訓練、交通安全教室、よいこの教室	知	主		避難訓練、自然災害に対する知識、情報モラル学習
9年			単元	お作法教室				お作法教室	
			学習活動	オリエンテーション、夏休みの過ごし方	他	自		話し合いの基本スキル	
9年	単元		できることからはじめよう				できることからはじめよう		
	学習活動		植樹と育樹、水生生物調査	思	主		福祉体験		
9年	単元		自分の身は自分で守る				自分の身は自分で守る		
	学習活動		避難訓練、交通安全教室、よいこの教室	知	主		避難訓練、自然災害に対する知識、情報モラル学習		
9年	単元	お作法教室				お作法教室			
	学習活動	オリエンテーション、夏休みの過ごし方	他	自		話し合いの基本スキル			
ジャンプ期	5年	単元	大切な命				大切な命		
		学習活動	米作り、宿泊体験	思	他		自分の誕生、鮭料理、米の収穫		
	6年	単元	自分の身は自分で守る				自分の身は自分で守る		
		学習活動	避難訓練、交通安全教室、よいこの教室	知	主		避難訓練、自然災害に対する知識、情報モラル学習		
	7年	単元	お作法教室				お作法教室		
		学習活動	オリエンテーション、宿泊学習に向けて	他	自		話し合いの基本スキル		
	8年	単元	見つめよう東北				ふるさとの歴史、ふるさとの未来		
		学習活動	修学旅行	他	自		夢ケーキ作り、大槌探訪		
	9年	単元	自分の身は自分で守る				自分の身は自分で守る		
		学習活動	避難訓練、交通安全教室、よいこの教室	知	主		避難訓練、自然災害に対する知識		
9年	単元	お作法教室				お作法教室			
	学習活動	オリエンテーション、修学旅行に向けて	他	自		話し合いの基本スキル			
9年	単元	遺跡発掘体験				自然体験学習、職場訪問			
	学習活動	縄文遺跡、町の歴史	思	主		風力発電を学ぶ、事業所・企業訪問			
9年	単元	防災教育				防災教育			
	学習活動	避難訓練、交通安全教室	知	社		避難訓練、自然災害に対する知識、情報モラル学習			
9年	単元	大槌の特産品販売				大槌の特産品販売			
	学習活動	特産品販売準備、町の特産品を知る	社	自		盛岡市にて特産品販売			
9年	単元	防災教育				防災教育			
	学習活動	避難訓練、交通安全教室	知	社		避難訓練、自然災害に対する知識、情報モラル学習			
9年	単元	特産品宣伝活動				職場体験学習			
	学習活動	修学旅行にて大槌特産品 PR 活動	社	自		地域の職場体験活動			
9年	単元	防災教育				防災教育			
	学習活動	避難訓練、交通安全教室	知	社		避難訓練、自然災害に対する知識、情報モラル学習、語り部			



社会貢献力 **社** 自己形成力 **自**

		3学期	
		おじいちゃんおばあちゃんだいすき	
		他	社
		郷土に伝わる遊び体験	
		思	他
		自分の身は自分で守る	
		知	主
		避難訓練、心の授業	
		知	主
		お作法教室	
		他	自
		恥ずかしいこといろいろ	
		他	自
		にこにこなかよし	
		他	社
		地域の人形劇団との交流	
		思	社
		自分の身は自分で守る	
		知	主
		避難訓練、心の授業	
		知	主
		お作法教室	
		他	自
		恥ずかしいこといろいろ	
		他	自
		たんけん、発見！町の人	
		社	自
		復興工事現場で働く人々へのインタビュー	
		社	自
		自分の身は自分で守る	
		知	主
		避難訓練、子ども人権教室、心の授業	
		知	主
		お作法教室	
		他	自
		恥ずかしいこといろいろ	
		他	自
		できることから始めよう	
		思	他
		1/2成人式、自分たちのできること	
		思	自
		自分の身は自分で守る	
		知	主
		避難訓練、子ども人権教室、心の授業	
		知	主
		お作法教室	
		他	自
		恥ずかしいこといろいろ	
		他	自
		大切な命	
		主	自
		鮭の一生、稚魚放流	
		他	社
		自分の身は自分で守る	
		知	主
		避難訓練、心の授業	
		知	主
		お作法教室	
		他	自
		恥ずかしいこといろいろ	
		他	自
		歩きだそう未来へ	
		思	主
		小学部卒業プロジェクト	
		社	自
		自分の身は自分で守る	
		知	主
		避難訓練、情報モラル学習、心の授業	
		知	主
		お作法教室	
		他	自
		恥ずかしいこといろいろ	
		他	自
		グループアプローチ	
		他	自
		10年後の自分	
		主	自
		防災教育	
		知	他
		心の授業	
		思	主
		新巻鮭作り	
		社	自
		新巻鮭作り	
		他	社
		防災教育	
		知	他
		心の授業	
		思	主
		卒業式に向けて	
		他	自
		大館町学生会議参加、町への提言	
		社	自
		防災教育	
		知	他
		語り部活動	
		知	社

できるようになるか」(資質・能力)を見通すものへの転換が図られ<sup>19)</sup>「資質・能力」を社会と共有する「社会に開かれた教育課程」を実現させることが他校種の学習指導要領と同様に謳われている。本研究では、こうした資質・能力をいかに系統的に育成していくかを検討するため、リサーチを行った県内の小中一貫の義務教育学校が導入している「4-3-2制」という前期4年(ホップ期)、中期3年(ステップ期)、後期2年(ジャンプ期)というカリキュラムをモデルとしたカリキュラムの開発を試みた。育成を目指す「資質・能力」を学年ごとに設定するのではなく、子どもの多様な実態を踏まえ、抽象度を高めた3段階の設定とすることで、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえながら、偏りなく実現できるのではないかと考えた。モデル校の学校教育目標、児童生徒の実態等をイメージして設定した特別支援学級において育成を目指す資質・能力の具体は以下の表-1の通りである。

表-1

**9年間を見通した特別支援学級において育成を目指す「資質・能力」**

(1) ホップ期 (1~4年生)

〔知技〕 生活習慣に関わって、簡単な身辺処理に気づき、初歩的な知識や技能を身につけるようにする

〔思判表〕 自分の家族や身の回りにある社会の仕組みに関心を持ち、それらを表現しようとする

〔人間性〕 小さな集団での学習活動を通し、教師や身の周りの人に気づき、関心を持ち、挨拶など関わりを持つようとする態度を養う

(2) ステップ期 (5~7年生)

〔知技〕 活動や体験の過程において、自分自身や身近な人々の関わり等に関心を持ち、生活に必要な習慣や技能を身につけるようにする

〔思判表〕 自分自身や身近な人々の関わり等について理解し、考えたことを表現しようとする

〔人間性〕 自分のことに取り組んだり、身近な人々等から意欲を持って学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う

(3) ジャンプ期 (8~9年生)

〔知技〕 生活や職業に対する関心を高め、将来に生きる基礎的な知識や技能を身につけるようにする

〔思判表〕 将来の生活や職業の課題を設定し、その解決策を考え、自分の考えを表現する

〔人間性〕 基本的生活習慣を身につけ、自主的・主体的に学習や行事等に取り組もうとする態度を養う

小中一貫校における特別支援教育は、学校教育目標をベースに9年間を見通した指導・支援に取り組むことができるため、個に応じた継続性のある指導・支援を行いやすく、子どもの精神的・身体的負担を軽減するメリットがある。その結果、「中1ギャップ」を解消することにつながり、小学校から中学校への移行を円滑化することが可能となる。保護者にとっても、学校との関係を一から作り直さなければならないことに対する負担は払拭される。教員間の連携もしやすいという利点も含め、小中一貫教育校だからできる特別支援学級における9年間を見通したカリキュラム開発(生活単元学習)を試み、図表5の通り年間指導計画を作成した。生活単元学習は、領域・教科を合わせた指導の代表的な指導の形態であり、社会参加するために必要な「生きる力」を育てることを目指し、社会生活を送る上で必要となる様々な事柄を体験的、実際的に学ぶことができるものとして重視している。また、本研究で参考とした沿岸地区のA町コミュニティスクール協議会が作成した「目指す子供の姿」<sup>20)</sup>の中には、地域の取組と

して「職場体験・ボランティアなど、社会参画の場をつくる」とある。将来的に「地域・社会を愛し、貢献する人」の育成に向け、先進的なコミュニティスクールの活動と連携しながら、地域イベントへの参加・参画の場を設定し、地域連携・協働を進めていきたい。しかし、児童生徒の障害の状態や教育的ニーズは多様であるため、単元の中で一律に同じ学習内容を割り当てるのではなく、学習活動の中で個の状況に応じた支援、指導が必要となる。そのためにも、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を引き継ぎ、共有し、日常的に個に応じた手立てを講じていかなければならない。こうした考えに立ち、試案として特別支援教育の全体計画（図表4）及び、生活単元学習の年間指導計画（図表5）の試案を作成した。

本年間指導計画の特徴として、以下の点を挙げる。

- ①生活単元学習という広範囲に各教科等の目標や内容が扱われる指導の形態を中心に据えることで、年齢差や発達段階といった個人差の大きい9年制の集団にも適合するものを設定することが可能と考えた。
- ②単元は、必要な知識及び技能の習得とともに、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図り、現在や将来の生活に生かせる内容となるよう意識した。
- ③ふるさとを愛する心を育むために、地域における実際の生活から発展した単元を設定した。
- ④一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むと共に、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるようにした。
- ⑤1年生から9年生までが同一のテーマのもと、それぞれの役割を担いながら生活上の目的を達成していく単元を年間に数回設定し、9年間の学びの見通しを子ども達ももてるようにした。
- ⑥キャリア教育の視点から、各学年でのやりがいのある活動や、役割を担う経験を積み上げ

ていくようにした。自己肯定感、有用感を育んでいくことを意識した。

- ⑦特別支援学校の高等部への進学、卒業後の自立と社会参加といった卒業後を見据え、働くことに対する楽しさややりがいを感じられるような単元を8・9年生に多く配列した。
- ⑧9年制の特色を生かし、1～4年、5～7年、8～9年といった編制や全学年一斉等、柔軟に編制を考えることとした。一方で、節目も一つの大事な要素と考え、学校行事等、学段段階で分けて活動する単元も設定した。
- ⑨特別な支援を必要とする児童・生徒には、環境の変化に対して強い不安を感じるケースが多いため、小学部から中学部への移行がスムーズにできるように、6・7年生合同で行う単元を取り入れていくこととした。
- ⑩指導者が児童・生徒の9年間の学びを系統的に捉えることができるように、小・中学部を越えて指導にあたるようにした。

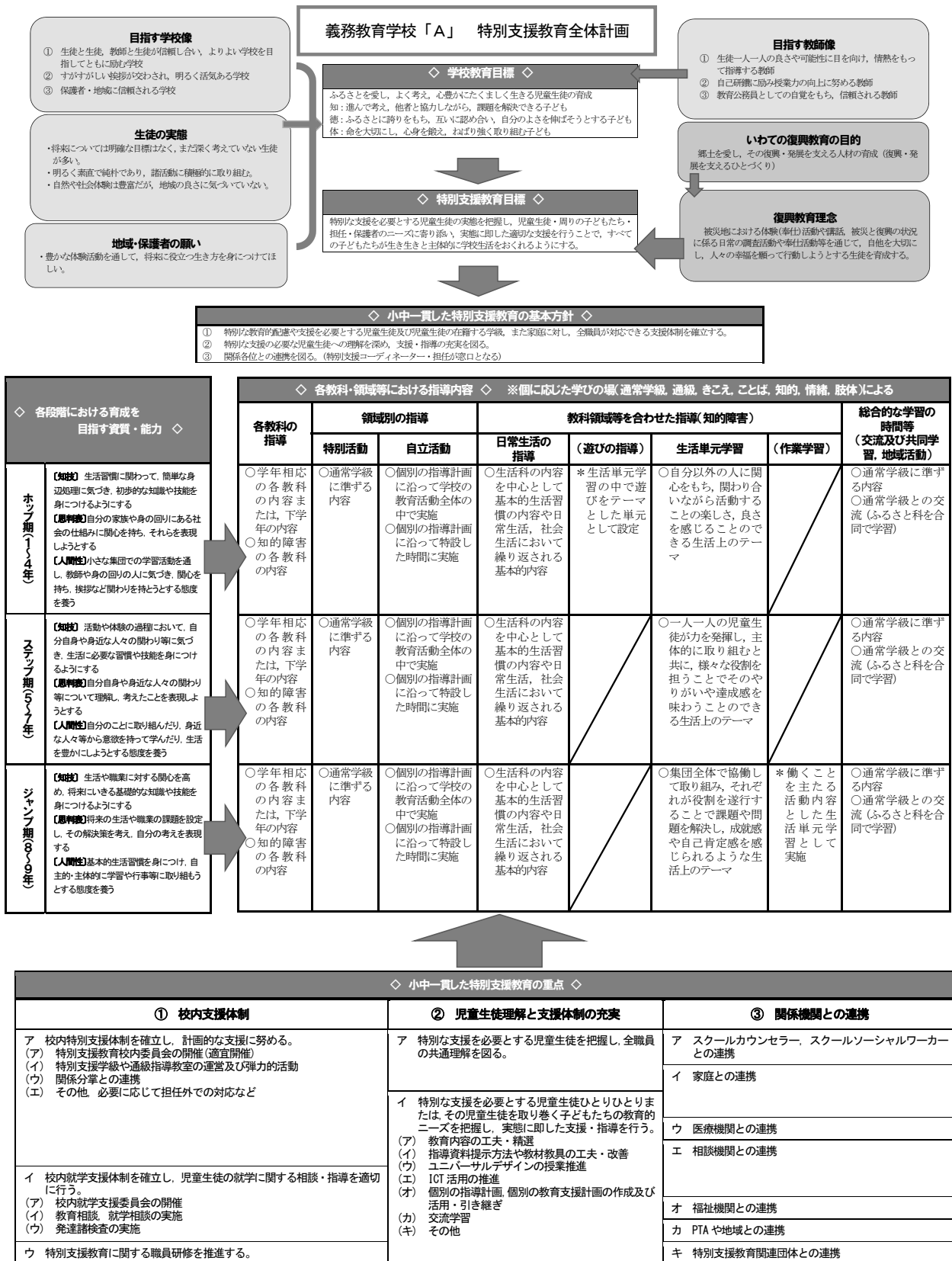
### (3) 全体カリキュラムの提案

特別支援教育に関するカリキュラムの全体計画案は、以下、図表4～図表5の通りである。

### (4) 課題について

事前に訪問調査を実施したモデル校の例としてホップ期、ステップ期、ジャンプ期という3つの段階に分けた単元の配列を構想した。特別支援学級におけるそのメリットは大きいと感じられた一方、検討を進める中で、単元によっては学部毎、あるいは全学年で指導した方が、資質・能力を段階で区切らず、なだらかに育成していけるのではないかと考えられた。例えば「〇〇横町（地域のイベント）に参加しよう」といった単元は毎年の行事であり、全学年で取り組むことにより、自身の将来の姿がイメージしやすくなるのではないかと考えられる。よって、一律に3期に分けての単元計画とはせず、単元によって柔軟に考えることとした。しかし、本提案は一つの想定を基に作成したものであり、本来、生活単元学習は子どもの姿をベースに、地域性や現代的諸課題をも踏まえて開発していくべきものであろう。実践を通し

図表 4



図表 5

学部	学年	育成を目指す資質・能力	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
前期課程(小学生)	特別支援学級	<p>【知識・技能】 生活習慣に関わって、簡単な身辺処理に気づき、初歩的な知識や技能を身につけるようにする</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 自分の家族や身の回りがある社会の仕組みに関心を持ち、それらを表現しようとする</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 小さな集団での学習活動を通して、教師や身の回りの人に気づき、関心を持ち、挨拶など関わりを持つこととする態度を養う</p>	●入学をお祝いしよう ○1年生を迎える会の実施(ゲームやダンス等、遊びを主とした活動)	●運動会を頑張ろう(6学年合同で小学部段階としての体育的行事運動会に向けた取組み) ○通常学級との合同練習 ○支援学級としての練習	●遠足に行こう(地域祭典) ○地域の観光名所や公園等、人が集う場所のいくつかを1日ずつミニ遠足として、複数箇所を巡る。また、出身保育園や幼稚園等も経由とし、交流の機会とする。	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	
			●自己紹介ポスターづくり	●ポスターづくり・地域への掲示 ○応援用のポスターづくり	●校外学習に行こう ○5～7年生が合同で近隣市町村に出かける。 ○公共交通機関、施設の利用を経験する	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	
			●遊び場をみんなで準備する	●地区の田畑をお借りして、野菜等を育てる	●校外学習に行こう ○5～7年生が合同で近隣市町村に出かける。 ○公共交通機関、施設の利用を経験する	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	
	特別支援学級	ステップ期	<p>【知識・技能】 活動や体験の過程において、自分自身や身近な人々の関わり等に基づき、生活に必要な習慣や技能を身につけるようにする</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 自分自身や身近な人々の関わり等について理解し、考えたことを表現しようとする</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 自分のことに取り組んだり、身近な人々等から意欲を持って学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う</p>	●みんなで遊ぼう ○新1年生が楽しむような遊びを考える	●**劇團**をつくろう ○地域の田畑をお借りして、野菜等を育てる	●校外学習に行こう ○5～7年生が合同で近隣市町村に出かける。 ○公共交通機関、施設の利用を経験する	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント
				●遊び場をみんなで準備する	●地区の田畑をお借りして、野菜等を育てる	●校外学習に行こう ○5～7年生が合同で近隣市町村に出かける。 ○公共交通機関、施設の利用を経験する	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント
				●遊び場をみんなで準備する	●地区の田畑をお借りして、野菜等を育てる	●校外学習に行こう ○5～7年生が合同で近隣市町村に出かける。 ○公共交通機関、施設の利用を経験する	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント
特別支援学級	ジャンプ期	<p>【知識・技能】 生活や職業に対する関心を高め、将来に生きる基礎的な知識や技能を身につけるようにする</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 将来の生活や職業の課題を設定し、その解決策を考え、自分の考えを表現する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 基本的な生活習慣を身につけ、自主的・主体的に学習や行事等に取り組もうとする態度を養う</p>	●みんなで遊ぼう ○新1年生が楽しむような遊びを考える	●**劇團**をつくろう ○地域の田畑をお借りして、野菜等を育てる	●校外学習に行こう ○5～7年生が合同で近隣市町村に出かける。 ○公共交通機関、施設の利用を経験する	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	
			●遊び場をみんなで準備する	●地区の田畑をお借りして、野菜等を育てる	●校外学習に行こう ○5～7年生が合同で近隣市町村に出かける。 ○公共交通機関、施設の利用を経験する	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	
			●遊び場をみんなで準備する	●地区の田畑をお借りして、野菜等を育てる	●校外学習に行こう ○5～7年生が合同で近隣市町村に出かける。 ○公共交通機関、施設の利用を経験する	●七夕会をしよう ○折り紙などで七夕の飾りをつくる	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう① 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●収穫しよう ○畑の野菜の収穫 ○野菜の販売 ○野菜を使った調理(昼食を作った職員室で販売) ○買い物学習(食材の購入) ○畑作業に関するアドバイスをいただいた地域の方や収穫パーティー	●学習発表会を成功させよう ○発表内容についての話し合い ○ステージ発表の練習 ○通常学級との合同練習 ○衣装や小道具の製作	●「〇〇棚町(地域のイベント)」に参加しよう② 〔1～4年生〕 ○イベントに展示する絵や飾りづくり、ステージ発表の練習。 ○買い物学習(必要な材料の購入)	●クリスマス会をしよう ○クリスマスツリー、飾りづくり ○歌やゲーム、レクリエーション ○クリスマスカードづくり ○クッキーづくり ○プレゼントづくり	●ニューイヤーパーティーをしよう ○みんなで新年のお祝いをしよう ○書き初めしよう ○収穫した餅米による餅つき ○餅料理づくり	●わかめ採りのお手伝いをしよう ○地域の産業について調べる ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	●カレンダーをつくらう ○次年度の行事等を記したカレンダーづくり ○作ったカレンダーを全校の各学級にプレゼント	

育成を目指す資質・能力に基づき、小中一貫(9年間)を見通した年間指導計画の例(特別支援学級の生活単元学習) ●=単元名 ○=主な活動

\* 子どもの実態は多様であるため、単元ごとに個別の指導計画を作成し、一人一人の目標と活動内容、支援の手立てを明確にする。  
\* 生活単元学習と関連づけながら、各教科の指導内容を計画する。

岩手の教育課題に応じた小中一貫教育のモデルカリキュラムの開発(その2)

た検証が今後の課題であると考え。また、特別支援教育は個に応じた指導・支援が重要である。今回は生活単元学習に絞ったカリキュラムの開発であった。今後は、自立活動を中心に、一人一人に応じた各教科等別の指導をどのように系統的に行っていくのか、カリキュラム・マネジメントのあり方の検討が必要であろう。また、小中一環の指導において、個別の指導計画をどのように引き継ぎ、活用していくべきか、その要領の検討が課題であろう。

(文責 木村洋・田淵健・中軽米璃輝・村上貴史)

## 第4章 本研究の成果と課題

小中一貫カリキュラム開発の全体発表会における、岩手県立総合教育センター藤岡宏章所長からのコメントを次にあげる。

### 1 カリキュラムの検討・作成にあたって確認すべき事項について

#### (1) 計画の条件基盤の確認について

実際の場合には、学校の状況、児童生徒の状況、学校を取り巻く状況（地域の状況や社会動向に加え、保護者の願いや地域の想いを含む）等を確認・把握して計画される。

今回は、「沿岸」「被災地」「小中一貫」という基盤となる条件があることから、それぞれのフィルターを通して、「学習材としての特色」、「思考の場や活動の場の特色」等を整理し、そのことを踏まえた計画を考え、各学習を配置していくことが求められる。

#### (2) 一貫教育としての確認について

計画を構成する項目や内容・要素に一貫性があるかが問われる。それぞれの内容は適切であっても、それぞれに「一貫教育」として関連性が見え、一般論ではない特長的なものが感じられなければならない。このことは、例えば系統性という視点においても同様でありある。そもそも学習指導要領は系統的に内容が構成されていることから、その

上で一貫教育としての系統をオリジナルのものとして創造できるかがカギとなる。

## 2 成果について

・カリキュラム・マネジメントが求められている今、具体を想定して計画を立案してみることはかけがえのない経験であり、そのことで教育活動を俯瞰的に見ることでこれまで見えなかったこと、気づかなかったこと等様々な課題が明らかにできたと思われる。

・カリキュラムの立案にあたってのベースとなる考え方（理論）をまとめ、具体として9年間を通した計画を立て、その考えの具現化を図るプロセスは正統的なアプローチと言える。

そのことを踏まえて、計画が構造的であり、「重点」「方針」に加えて、「指導方法」に留まらずその「推進体制」にまで目を向けていることは興味深い。

・小中一貫で教育を考えることは、教育活動をダイナミックなものにするとともに、9年間の学びをねらいから外れること無く、それぞれのパーツとなる活動や取り組みを、1つの柱に沿ってつなぎ・整理・分類することでより効果的な教育展開が可能となる。

・特別支援教育については、小学校、中学校間において系統的な教育課程を編成することは難しく、分断的な状況にあることが大きな課題の1つである。小中一貫教育を土台に計画立案することは、一貫だからこその課題を解決することができるとともに、その計画とその要素を一般化することで、一貫教育校ではない学校への汎用の可能性をもっている。

## 3 課題について

・学校としての小中一貫教育の考え方を述べることは大切であり、そのことに沿って一貫教育における教科や領域が担うものは何か、そして一貫教育であるためには、どのようなアプローチ・切り口があり、その具現化のための手立てはどのようなことが考えられるのかという視点で計画を改めて検証してみる必要がある。

・ホップ・ステップ・ジャンプの3つの期は、学校経営の考えに基づく教育課程編成の根幹の1つである。この「期」の編成の意図・ねらいを踏まえ、教科等の特色を加味し、より効果的なカリキュラムにしていくためには、共通する基盤にありながらも柔軟性ある編成に目を向けていく必要がある。その際、各期の接続の在り方は重要な論点であり、ぜひ議論のテーマにしたい。

・発達段階に応じた資質・能力を明確にすることは極めて重要であり、その上で、例えば総合のように「ふるさと科の3つの柱」と「3つの期」を整理・分類し、各活動に系統性と整合性を持たせ、いつ・どこで・何に取り組むべきかを明らかにしたことは検証・評価の精度の向上にもつながる。指導方法、指導体制に加えて、評価方法を明確にすることは、どの教科等においても進めていく必要がある。

・9年間を見通した育成を目指す資質・能力を明らかにしていることはとても重要なことである。特に特別支援教育については、従来の課題である校種間における分断的状況の解決に向けて、学校としての基本方針のもと、目指す資質・能力が、本校ならではのものとなっているかが求められる。その検証のためにも、校内委員会や就学指導体制等の在り方や各個別の計画の引継ぎの在り方など、一貫教育だからこそ検討しやすいメリットを生かし、具体的な試案の提案に踏み込むことを期待したい。

・今回の計画立案にあたっては、参考地域の状況をもっと色濃く出した大胆な計画が可能であったと思われる。例えば、地域コミュニティとの関わりの視点にさらに踏み込みこむことで教育課程に特色を持たせることができるとともに、地域を巻き込み地域の教育力の向上にもつながり、地域活性化の1つの視点にもなっていく。このように計画の参考地域の状況を十分に生かしたオリジナル性の高い提案を今後期待したい。また、校種間連携に関することは今後益々重要となる。高校との連携は双方向性をもたせることができるかがカギとなる。また、教科等をふるさと科と関連させて

いくためには、地域素材の開発や地域コミュニティの活用等、多角的・多面的なアプローチで切りこむ必要がある。

（文責 藤岡宏章）

## 第5章 今後への期待

前期「特色あるカリキュラムづくりの理論と実際」と後期「学習指導要領とカリキュラム開発」の2つの授業は、カリキュラムの考え方やカリキュラムを開発する力を身に付けること目的として行ったものである。この2つの授業を通して、院生は、学習指導要領で求められているカリキュラム・マネジメントの必要性や、考え方を理解するとともに、実際にカリキュラムを作成することにより、カリキュラムを開発する力が身に付いたと考える。

総合的学習（ふるさと科）のカリキュラムは、被災地が抱える様々な課題を解決し地域を創造していく人材を育成する上で非常に重要なものであると考える。このカリキュラムは、岩手県が全県で推進している復興教育の充実にもつながっていくものである。また、特別支援教育のカリキュラムは、小中9年間を通し系統立てた教育計画となっており、これまでの校種間の接続が希薄であるという現実的課題を解決する提案となっていると考える。さらに今回作成したカリキュラムにおける生活単元の学習計画は、個に応じた学習を編成することができる手立てが組まれており、これからの特別支援教育に求められるものとなっている。公立学校の特別支援学級のカリキュラム作成にあたっては、今回のカリキュラム作成の視点に立つことが望まれる。

今後、今回作成したカリキュラムを学校現場で実践し、さらに検証・工夫・改善に努めていくことを期待したい。

（文責 森本晋也）

### <注および引用・参照文献>

- 1) 校種間接続としては、すでに公立の中学校・高等学校については、平成10（1998）年6月の学校教育法改正により、翌年4月より、中学校から高等学校までの一貫した教育を行う単一学校として中等教育学校の設置や、併設型ないし連携型の中高一貫教育を行うことが可能になっている。また、従来も研究開発学校や構造改革特別区域などで小中一貫教育などの取組みが行われてきたが、平成17（2005）年の中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」において、6・3制の見直しや9年制の義務教育学校の可能性など、校種間の接続の見直しの検討が示されて以降、呉市や品川区など各自治体で公立の小中一貫教育の取り組みが見られるようになってきた。その後、平成27（2015）年6月の学校教育法の改正を経て、翌年4月より、公立の小中一貫教育校として、義務教育学校の設置が認められるようになり、政策的に小中一貫教育がいつそう進むことが想定される。本研究では、このような政策動向も踏まえ、改訂学習指導要領でも強調される校種間の接続の観点から、岩手県初の義務教育学校である大槌学園を参考にしつつ、小中一貫教育という条件のもとでモデルカリキュラムの開発を行った。
- 2) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（2008年1月17日）。
- 3) 同上。
- 4) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016年12月21日）参照。
- 5) 文部科学省「教育課程部会 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ資料7」参照。  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/02/13/1382177\\_7\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/02/13/1382177_7_1.pdf)（2019.1.22閲覧）
- 6) 大槌町教育委員会『大槌町の教育～学校・家庭・地域がチームで創る教育～』（2018）参照。
- 7) 大槌町立大槌学園『平成27年度「ふるさと科」実践記録集』（2015）参照。
- 8) 斉藤馨他「海・里・森の沿岸環境学習授業案の開発と授業実践—大槌学園ふるさと科で発信する海の自然・文化・産業・防災—」（2018）参照。
- 9) 小中一貫教育全国連絡協議会、大槌町、大槌町教育委員会『すべての子どもたちに「豊かな育ち」と「確かな学び」を保障する小中一貫教育～10年後・20年後の日本を担うグローバル人材の育成を目指して～』『平成30年度第13回小中一貫教育全国サミット in おおつち』（2018）参照。
- 10) 福山市立城北中学校「平成29年度総合的な学習の時間の時間全体計画」も参考にした。  
[http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/chu-johoku/revolution\\_actionplan/syutaiteki\\_manabi02/1\\_sougou\\_keikaku/01\\_sougou\\_zentai.pdf](http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/chu-johoku/revolution_actionplan/syutaiteki_manabi02/1_sougou_keikaku/01_sougou_zentai.pdf)（2019.1.22閲覧）、同校「平成29年度第3学年全体計画（年間指導計画一覧表）」も参考にした。  
[http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/chu-johoku/revolution\\_actionplan/shishitsu\\_nouryoku/9\\_keikaku-3.pdf](http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/chu-johoku/revolution_actionplan/shishitsu_nouryoku/9_keikaku-3.pdf)（2019.1.22閲覧）
- 11) 田代高章他『岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第12号』「小中連携・一貫カリキュラムとしての総合的な学習の時間の現状と課題（1）」（2013），pp.149-164，参照。田代高章他『岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第13号』「小中連携・一貫カリキュラムとしての総合的な学習の時間の現状と課題（2）」（2014），pp.105-117，参照。田代高章他『岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第14号』「小中連携・一貫カリキュラムとしての総合的な学習の時間の現状と課題（3）」（2015），pp.281-297，参照。
- 12) 文部科学省ホームページ『特別支援教育の推進について（通知）』参照。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/](http://www.mext.go.jp/a_menu/)（2019.1.28閲覧）
- 13) 文部科学省ホームページ『特別支援教育について,1, はじめに』参照。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/](http://www.mext.go.jp/a_menu/)（2019.1.28閲覧）



- 14) 文部科学省ホームページ『通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査』参照。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/). (2019.1.28 閲覧)
- 15) 岩手県教育委員会ホームページ『「小・中学校の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に関する実態調査」結果概要』参照。  
<https://www.pref.iwate.jp>. (2019.1.2閲覧)
- 16) 文部科学省『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き』参照。  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/)  
(2019.1.28 閲覧)。
- 17) 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』（開隆堂出版, 2017）参照。
- 18) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領』（開隆堂出版, 2017）参照。
- 19) 中央教育審議会「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」(2018)。
- 20) 大槌町教育委員会『大槌町の教育』（2018）参照。